



- もくじ
- 1P
 - 品川区のハコモノは維持できるか
 - 町会にスタンドパイプを増強
 - 教育委員会に新委員が就任
 - 私の本棚「〇に近い△を生きて」
 - 2P
 - 携帯電話の緊急地震速報

震度5で携帯電話の緊急地震速報が鳴りませんでした



GW中の5日早朝、東京で強い揺れを感じました。あれっ？と思った方、そう携帯の緊急地震速報が鳴りませんでした。同速報は、最大震度が5弱以上と予想された場合、震度4以上が予想される地域に対して発表されます。しかし、今回は震源の深さが160kmで、150km以上の深さになると今の技術では精度の高い震度が予測できないため、そもそも速報が発表されなかったといえます。システムが整備され、予測技術が向上しても、やはり“自分の身は自分で守る”備えが大切であることを確認しましょう。

品川区のハコモノは維持できるか



目黒区では、区有施設（ハコモノ）の存続について、今後40年を見据えた「区有施設見直し方針」を策定しました。なぜ策定したのか…目黒区には175の施設がありますが、将来このまま保有し

続けるには3つの課題があると言います。一つは、施設の老朽化。築30年以上の施設が1/3以上になり莫大な修繕・建替え費用がかかってきます。二つに、少子高齢化と人口減少。子どもの数が減るなど施設ニーズが変化し、40年後の人口が16%減少する予測の中、施設の機能や数をどうするか。三つに、維持管理の財政の負担。現在でも

年間200億円の維持管理費がかかっている上、建替え等費用に平均年70億円以上かかり財政負担が重くのかかかってきます。「方針」では、「新たな施設はつくりたくない」「大規模改修・建替えは集約化・複合化を図る」「施設は15%縮減していく」という3原則が示されました。しかし、15%の縮減をしてもなお、40年間で640億円の財源不足が生じ、これは施設長寿命化や更新時期の延長などでやりくりしていくというものです。

品川区の区有施設は171で、目黒区と同様の課題があります。既に「公共施設有効活用プラン」が策定され厳しい将来を予測してはいますが、具体性に乏しいところです。総務省では、課題の解消に向け長期的な視点を持って公共施設の更新・統廃合等を行うよう全国自治体に対し「公共施設等総合管理計画」を策定することが通知されました。管理計画をしっかりと立てることで、施設サービスが今後どのように変化していくか、区民への説明も含め注目されます。

町会にスタンドパイプを増強



▲スタンドパイプセット(イメージ)▲スタンドパイプ設置の様子

スタンドパイプは、道路にある消火栓につなぐことで誰でも、いつでもホースから放水し消火活動ができる優れたもので、ほとんどの町会に配備されています。防災の強化から、希望する町会へ、さらに機材一式と移動用台車をセットにしたものを増備することになりました。5月以降、町会等に希望が募られていきます。

教育委員会に新委員が就任

前任者の任期切れに伴い、4月1日より菅谷正美さんが委員に就かれました。菅谷さんは、日野学園の初代校長で、私も五反田駅前花壇づくりなどでお世話になった方です。ご活躍をお祈りします。

私の本棚

「〇に近い△を生きて」

正論や正解にだまされるな

鎌田實(ポプラ新書) その7

諏訪中央病院での激務に加え、チエルのノブイリ事故支援、イラク救済活動など、すさまじくがんばる著者が、頑張りたくない生き方「正解」にだまされるなど説いています。「〇と×のレッテルを貼る生き方はお手軽だ。〇と×の発想法は堅苦しくて不自由でおもしろくない。〇と×の間にある無数の△」「別解」に、限らない自由や魅力を感じる。魅力的で示唆に富んだ言葉(趣旨)を、紹介します。

《結婚とは》

がんを再発した妻とつらそうに看病する夫。妻は夫に元気になるつもりをもらいたいと思いつつ、夫が好きな本をプレゼント。夫の元氣な姿が、妻も元氣になる。相手の幸せが、妻が自分もつらさから解放される。自分がつらくても相手の幸せを願う。これが結婚だ。

武田鉄矢さんは心臓の手術をした。その時女房は「あなたと21歳で結婚した時、この人のオシメを替えるために一緒にいるんだ」と思った。だいが目標に近づきました。武田さんは「俺のオシメを替えることを目標にしたぞうだけだ、俺は違う。今はただの瘦せたばあさんだけ、世界中で俺1人がお前の最も美しくった二十歳のころの姿を覚えている。あなたは終わりをみつめなさい。私は始まりを記憶しています。かっこいい。結婚観なんて結局千差万別。

〇に近い△を生きて」と「別解力」がついてくる。意見の不一致を乗り越えやすくなる。家庭の中にすさまじく吹いても自分の居場所をつくらしたり、相手の居場所をつくらしたりすることができる。(つづく)